

令和3年度 椎葉村立大河内小学校 学校関係者評価書

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営ビジョン 本村の重点課題である「德育」コミュニケーション能力の育成と「知育」学力向上を最重点目標にすえ、「体育・食育」「地域との連携・協働」の重点目標を達成するために、職員が愛情と情熱をもち、家庭や地域との連携を図りながら、組織的に全力で取り組む。また、保護者や地域住民の信頼と期待に応え、大河内小の子ども、教師、保護者が自分や学校、地域に自信と誇りがもてるようにするための学校経営を行う。

※ 関係者評価については、学校評議員の評価の平均値

項目	本年度の重点目標	具体的対策（手段）	自己評価	関係者評価	結果の分析・考察および改善策等	学校評価関係者からの意見
人間性・社会性の育成	感性を磨き、自分の思いや考えを的確に伝えるコミュニケーション能力等の豊かな人間性や社会性を身に付けさせる。	① 道德教育の推進	3	3.3	○ 心豊かな児童を育成するために、各学級において特別の教科道德の授業を実践し、参観日で保護者に授業公開している。また、学校行事や生活科、総合的な学習の時間における体験活動を通して、公共心や規範意識、思いやりの心などを育てることができた。月目標にも道德の価値項目に関連するものを設定するなど意識の啓発を図ることができた。	○ 行事等でおじいちゃん、おばあちゃん達と交流することが少ない。昔の遊びなどを教えてもらうなどの交流があるとよい。 ○ タブレットを利用した学校間連携がこれからも多くなると思う。地域性や少人数のことを考えるとこれからも多く取り入れていくとよい。
		② 生徒指導や人権教育の充実	3	3.3	○ 毎月実施している、「あのねタイム」や生徒指導研修会で児童の交友関係や悩み等を把握し、情報共有を行い、指導体制等についても全職員で共通理解を図ることができた。また、4月の全校懇談で保護者にも本校の「いじめ防止基本方針」について説明を行い、協力を依頼した。	
		③ 読書活動の推進	3	3.0	○ 11月までの児童への貸出冊数は、1168冊で、1ヶ月あたり平均83冊と昨年度と同じ時期の貸出冊数と同程度であった。11月には、委員会を主体として児童や職員の「おすすめの本の紹介」などを行い、読書への意欲付けを図ることができた。しかし、学校評価アンケートの結果を見ると、読書を家庭で取り組んでいるとは言いがたい。また、「読書の日」を設定しているが、「読書の日」の取組について方法や内容について検討する必要がある。	
		④ 学校間連携や豊かな体験活動の実践	3	3.0	○ 新型コロナウイルス予防対策を取り、九州大学宮崎演習林施設を活用しての宿泊学習や修学旅行、集団宿泊学習が実施できた。また、集合学習も計画通り実施することができ、村内の学校との交流も図れた。稲作、野菜の栽培活動等の豊かな体験活動も行うことができた。キャリアパスポートについても本年度から業間等の時間を活用しながら作成している。	
授業力向上と学力向上	児童一人一人の学習意欲を高め、授業力並びに学習の資質・能力を向上させる。	① 「分かった・できた」と実感できる授業の実践	3	3.5	○ 日々の授業においては、宮崎県が示している4つのチェックポイントを意識して授業実践している。また、校内の研究テーマである「ICTの効果的な活用」に向けて学級担任が各教科において手立て等を工夫し、研究授業等で成果や課題を検証して児童の学力向上へつなげている。新しい教育活動（プログラミング教育）も校内研修等を行い、積極的に取り組むことができた。	○ タブレットを低学年も使いこなせていて凄い。 ○ 授業でのタブレットの活用で児童たちも楽しく学習ができ、学力向上につながると思う。 ○ タブレット使用は、ツールとして大いに役に立つと思うが、視力への影響にやや不安を感じる。 ○ 複式の授業が大変だと改めて感じた。山間部のもつ問題がみんなの問題だと思う。 ○ 外国語の学習を楽しんで取り組んでいた。 ○ 短時間の参観であったが、先生方の情熱を感じた。
		② 基本的学習習慣の徹底	3	3.3	○ 授業開始の号令等、児童にしっかりと定着し、全学年チャイムと同時に授業がスタートできている。話の聞き方や発表の仕方など学習のきまりも全学年で共通実践でき、基本的な学習習慣が身に付いている。しかし、児童の家庭学習に対する意識に個人差があり、基礎学力を定着させる家庭学習の取組にも力を入れる必要がある。	
		③ 複式解消や個別指導の工夫	3	3.5	○ 低学年の国語や中・高学年の理科で複式指導の解消を行うことで基礎学力の定着を図っている。今後も一人一人の実態に応じた指導を重視していく。タブレットを活用することで、複式指導の工夫や読み、書きなどの基礎学力の定着も図ることができた。家庭学習については、保護者との連携が十分に図られていない状況も見られる。家庭学習の内容等について保護者と意見交換をする場を設定するなど手立ての工夫が必要である。	
		④ 特別支援教育の充実	3	3.0	○ 特別支援コーディネーターを中心に、毎月の校内委員会や夏季休業中の特別支援研修を通して、職員の特別支援教育に関する理解や指導力の向上を図ることができた。	

健康・安全と体力向上	体力・健康づくりの活動を充実し、食育・安全教育を推進させ、児童一人一人に望ましい習慣や実践力を身に付けさせる。	① 体力向上プランの完全実施	3	2.8	○ 体力向上プランの完全実施に向けて、体育の導入時のサーキットトレーニングや休み時間等に活用できる遊具を使った運動の紹介などを行った。親子体力テストも新型コロナウイルスの感染拡大予防対策を取り、実施することができた。体力テストの結果は、B判定以上の児童が85%を占めている。しかし、保護者の学校評価アンケートの結果から児童の体力向上低下や運動機会の減少を心配する意見も見られる。今後も様々な運動を通して、児童の体力向上を図っていく。	○ 子どもたちをみると、ボールを使ったスポーツに慣れていない感じがした。
		② 健康教育の充実	3	3.3	○ 本年度も、新型コロナウイルスの感染拡大予防対策で健康教育に力を入れた。業間活動の「すくすくタイム」で、手洗い、うがいなどの基本的な保健衛生習慣を身に付けることができた。また、「すくすくカード」で家庭との連携を図ったり、学校保健委員会を実施したりしたことで、保護者の保健に関する意識を啓発することができた。しかし、学校の取組に関しては評価してもらっているが、児童の健康安全についての習慣等については、十分でないと感じている状況が見られる。	
		③ 食に関する指導の充実	3	3.3	○ 本年度も、各学級での給食になったが、食事のマナー、偏食等に気を付けながら食事できるようにしている。また、給食当番活動もできるだけ自分たちで配膳させることで、食の大切さを体感させている。「弁当の日」の取組も計画的に実施することができた。食物アレルギーについては、全職員で研修を行い、全職員で共通理解を図りながら対応することができ、事故等もなかった。	
		④ 危険予知能力や危険回避能力の育成	3	3.0	○ 避難訓練や土砂災害防止教室等、地域の方にも協力いただき計画的に実施できた。これらの活動を通して、災害時における「自分の命は自分で守る」という危険予知と危険回避能力については、知識として理解させることができた。しかし、廊下歩行や昼休み時間の遊び方を見てみると日常生活における危険予知や危険回避能力は十分に備わっていない状況が見られる。今後は、児童の目線で安全点検を実施するなど児童の安全意識の向上を図っていきたい。	
家庭・地域との連携・協働	学校と家庭・地域との連携を通じた教育活動を推進し、地域から信頼される学校づくりを行う。	① 地域を生かした学習の充実	3	3.0	○ 本年度も、新型コロナウイルスの感染拡大予防対策のため、地域を生かした学習を十分に行うことができなかったが、地域の九州大学演習林施設を活用した宿泊学習を実施することができ、改めて地域のよさを感じることができた。	○ 小さい頃から地域に親しむことが、将来、社会参加へのもとになるのではないかと自分の過去を振り返りながら感じる。 ○ 学校は地域の心の寄り所であり、子どもたちの健やかな成長を願う。 ○ 神楽や白太鼓などの活動ができていてよい。
		② 学校と地域が一体となる活動の実施	3	3.3	○ 白太鼓踊りや神楽の伝承活動等、新型コロナウイルスの感染拡大予防対策をとりながら、地域の方にご協力をいただき実施することができた。学校だよりやホームページ等で学校の活動の様子なども積極的に発信することができた。	
		③ 地域からの学校支援活動の充実	3	3.0	○ 本年度も、新型コロナウイルスの感染拡大予防対策のために、地域の方と連携した活動の中止を余儀なくされた。そのような状況の中でも秋季大運動会等では、地域の方から温かいご支援を頂いた。	
		④ 地域から学校運営への参画促進	3	3.0	○ 学校運営協議会を計画的に実施し、学校評価に関しても地域の方の意見を取り入れながら行うことができた。しかし、学校評価アンケートについては、地域の方の意見を取り入れる方法など検討が必要である。今後はさらに地域の方の参画意識を高めながら、学校運営を進めていきたい。	

次年度の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材や人材を活用した体験活動や遠隔授業を効果的に取り入れる等、コミュニケーション力や自己表現力の育成を図る。 ○ 「分かった・できた」と実感させるために、1人1台のタブレットをより効果的に活用できるように、授業改善を行い、児童の学力向上を図る。 ○ ICT教育に対応できるスキルや情報モラルを身に付けた児童の育成を図る。 ○ 複式指導の工夫改善を図るとともに、個別指導を充実させる。 ○ 家庭との連携をとり、家庭学習の充実を図るとともに、親子読書の活動を充実させる。 ○ 体力向上プランを生かして、児童の体力向上を図る。 ○ 健康面に関する学校での取組が家庭でも継続できるように、情報発信や家庭と連携した取組等を充実させる。 ○ 「自分の命は自分で守る」を前提とした、日常的な危険予知能力や危険回避能力の育成を図る。 ○ 新しい生活様式に対応した、地域との連携の在り方を模索し、地域に信頼される学校づくりを行う。
---------	--